

1 経営理念

- (1) 安心して過ごせる安全で楽しい学校
- (2) 児童個々が存在を周りから認められ、集団の中で個性を発揮できる学校
- (3) 児童個々が生き生きと活動し、知・徳・体のバランスのとれた成長ができる学校
- (4) 教職員個々が仕事に誇りを持ち、役割を全うすることで社会的責任を果たし、その自己実現をかなえる活力ある学校
- (5) 家庭や地域と信頼関係を築き、一体となって活動し、その願いに応える学校

2 教育目標 「自ら学び、心豊かにたくましく生きる七塚っ子の育成」

3 中・長期経営目標

(1) めざす児童像

- ① よく考え、進んで学び合い、自己実現できる子【知】
- ② 心豊かで、思いやりのある子【徳】
- ③ 健康な心と体で、最後まで粘り強くやり遂げる子【体】

(2) めざす教師像

子どもの人間形成にかかわる使命と職責を自覚し、

- ① 常に自己研鑽に努める教師
- ② 子どもの思いを受け止め、子どもへの働きかけを惜しまず、子どもの成長を共に喜び合える共感的な人間関係を築く教師
- ③ 授業力・指導力を高め、専門職として子どもの確かな成長を保証する教師
- ④ 子ども、保護者、地域から信頼を得られるよう努め、連携して児童の健やかな成長を目指す教師

(3) めざす学校組織のあり方 ～ チームとして機能する職員集団 ～

- ① 経営ビジョンに沿って、計画的・組織的に動き、RPDCA サイクルに基づく実践を推進する学校組織
- ② リーダーを核として、教職員一人一人が自らの職責を果たし、組織的、機動的に運営する学校組織
- ③ 職員が目的を共有し、情報共有と協議、報告・伝達の設定しながら共通実践していく学校組織

4 学校の現状

(1) 児童の実態

- | | |
|--|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 明るく素直で、優しく接することができる | ・視力・口腔内の課題やSNS・早寝早起きに課題が見られる |
| <input type="checkbox"/> 言われたことは素直に行える | ・筋道立てて考える力や読解力が比較的弱い |
| <input type="checkbox"/> 子どもらしく活動的である | ・自己肯定感や自己有用感が低い児童が見られる |

(2) 学力の状況

- ① 特定の学年では特に基礎学力の定着が課題である。校内研究「授業後半の充実」に即した授業改善をはじめ、補習学習や自己肯定感の育成、基本的な生活習慣の定着等、引き続き総合的に取り組んでいく必要がある。
- ② 学習指導力の向上（授業力の差を縮める）に向けて、組織的に「つかむ・揃える・確かめる・やりきる・活かす」ことを意識し、何をどこまで、どうやって取り組むのかについて明確にしながら RPDCA サイクルを回していく必要がある。

(3) いじめ・不登校の状況

- ① いじめに対する職員の高い意識は児童の意識にも反映している。今後もタイムリーな情報の共有と迅速で組織的な対応に努めるとともに、授業の中での生徒指導を更に具体的に実践していく必要がある。
- ② 一昨年度後半から不登校児の改善が相次いで見られたが、現在も不登校傾向児童については、個別の対応が必要な状況である。当該児童の特性について専門家の知見も踏まえながら保護者と共有し、連携して個に寄り添いながら対応していく必要がある。

(4) 生活面の状況

- ① 口腔内の課題は保護者を巻き込んだ取組により改善しつつある。
- ② 高学年のゲーム依存児童の割合は市の平均を大きく上回り、大きな課題である。それにつれて、学習時間や睡眠時間が圧迫され、生活リズムを崩し不登校傾向や学業不振にも繋がっている実態が認められる。生活改善指導や学習指導など、個々に寄り添いながら保護者と一体となった指導を行っているが、更に多方面からの指導を模索していく必要がある。

5 カリキュラム・マネジメント

(1) カリキュラム・マネジメントの柱

「主体的に課題に立ち向かう元気な児童の育成」

(2) 現状

① 児童

- 素直で、言われたことはきちんとできる子が多い。当番活動や掃除など進んで動くことができる。
- ・やや指示待ちになりがちで、自分の意見を積極的に主張したり表現したりすることは苦手である。

② 教師

- 授業・教育活動全般において、自分で考えさせることを大切に指導に取り組んでいる。
- ・主体的、対話的で、深い学びの実現に向けた授業改善を進める中で、児童が自ら学習課題や学習活動を選択したり、自主的・自発的な学習を工夫したりしていくという視点がまだ弱い。

(3) 取組内容

- ① 全教育活動において、「知る・任せる・ほめる・認める」を根底に置く。
- ② 学年に応じたためあてと振り返りを大切にし、自分がどのように取り組んだのかを自己評価したり、友達との相互評価でのよさを価値付けたりすることで、自己肯定感や自己有用感を高める。
- ③ 学力向上、保健安全、生徒指導、特別活動、GIGAの5部会からなる「カリマネグランドデザイン」で見える化を図り、ベクトルの揃った、効果的・効率的な教育活動をめざす。

6 短期（今年度）経営目標と取組内容

(1) 確かな学力の育成

ア 学び合いの基本・基礎学力の定着

- ◇「大きく・話す・反応する・書く」力の育成
- ◇帯タイム学習、家庭学習の充実、個別放課後補充学習による基礎学力の育成

イ 校内研究テーマ「学び合い後半の充実」による学力向上との一本化

- ◇校内研究の充実（取組の焦点化、研修の充実、組織力の強化、授業構想シートの活用）

ウ 論理的思考力・読解力の育成

- ◇三角ロジック・活用力のトレーニング、丸囲み・線引きの取組

(2) 家庭と連携したよりよい健康習慣づくり

ア 早寝早起き朝ごはん・歯磨きなど、基本的な生活習慣向上の推進

- ◇授業参観や便り、すくすく集会、PTAによる啓発、必要に応じた指導の充実

イ SNS利用対策の充実

- ◇児童保護者への啓発活動と状況把握、必要に応じた個別指導の充実

ウ 運動に親しむ場の設定

- ◇げんきっずデーの取組の充実、縄跳び運動・スポチャレの取組の推進

(3) 自分で考え、進んでよりよく行動する力(自己有用感・自主性)の育成

ア 児童理解を深める取組と豊かな人間関係づくり

- ◇生徒指導の実践上の視点を生かした授業・教育活動の推進
- ◇アンケートやI-Check、保護者との連携による問題の早期発見、迅速な組織対応
- ◇配慮が必要な児童の様子についての情報共有と活用

イ 一人一人のよさを認め、個性を発揮させる場づくり

- ◇キャリア教育の視点で自他のよさや特性を認め合う風土の醸成

(4) 学習場面に応じた一人一台端末の効果的な活用

ア 基礎技能習得の場の設定

イ 授業のねらいをより効果的・効率的に達成するための研究・研修

- ◇ビジョンの共有と組織的運営、研修の計画的実施、実践状況の把握と個別指導の充実

(5) 教職員の働き方改革の推進

ア 教職員の時間外勤務時間の削減への努力

- ◇時間外勤務時間調査を継続
- ◇効率的効果的な働き方を意識した業務内容の見直しと健康管理意識の高揚
- ◇組織的な校務改善の対策（部活動休養日、定時退校日、学校閉庁日等）

イ 改善への取組と保護者や地域への理解・協力の周知

- ◇学校CNや教員業務支援員（SSS）等の積極的活用
- ◇学校だより等での取組の周知